

ARFANEWS

発行所 / スポーツ選手のためのリハビリテーション研究会 〒164-8604東京都中野区弥生町1-30-17 (有)ブックハウス・エイチディ内 電話03-3372-6251

高澤晴夫先生をしのんで

高澤晴夫先生との親しいお付き合いが始まったのは、ほぼ30年前の1968年からでした。先生はそのとき、既に日本体育協会スポーツ診療所長であり、戦後の整形外科スポーツ医学の先駆的業績者の水町四郎教授のあとを託されてトップアスリートの診療に携わっておりました。1964年の東京オリンピック大会の際には、代々木の選手村に設けられた診療所で救護医療に関わり、以後日本オリンピック選手団、更に名門早稲田大学ラグビー部のチームドクターとして活躍・奮闘されておりました。早稲田大学ラグビーにとって高澤夫人は勝利の女神であり試合の観戦を要請され、御夫婦でチームに貢献していました。医師となって間もなく、菅平の早稲田ラグビー部の夏合宿に参加して以来、一生ラグビーから離れなくなり、関東ラグビーフットボール協会内にメディカルソサエティーを創立し、病が重くなって入院する間際に菅平の夏合宿を見にいったのもスポーツを愛し、スポーツマンの治療に人生を捧げた先生ならではの出来事でした。

当時のスポーツ医学に関する発表の多くは、日本体力医学会の場で行われていました。古典的な一般医療に対してスポーツ医療に従事している医師は多少変わり者としてみられていた感がありましたが、現在のスポーツ医学の発展・隆盛の過程を振り返ってみますと、先生の歩んだ生涯が浮かび上がってきます。1974年の筑波での体力医学会で市川宣恭先生（大阪市大）から、高澤晴夫先生（横浜市大）、靱田幸徳先生（日医大）、中嶋寛之先生（東大）、城所靖郎（慶大）にスポーツ医学の中で整形外科スポーツを専門的に取り扱



故・高澤晴夫先生（1999年9月9日歿）

い、お互いの意見の交換をする場の必要性を提案され、お互いが発起人となり翌年の1975年に第1回日本整形外科スポーツ医学研究会が大阪で開催され、第1回は市川先生、第2回は高澤先生が担当されました。その後、1987年には研究会から学会となり、第13回の1988年には日本整形外科スポーツ医学会となりました。日本整形外科学会はスポーツ委員会を創り、スポーツ医学の教育と普及・啓蒙、更に日本整形外科学会認定スポーツ医制度が発足致しました。先生の色々な業績に対して、日本整形外科学会名誉会員に推挙されました。

1979年には、日頃の臨床例を報告する場として第1回東日本スポーツ医学研究会が開催されて、1990年に西日本臨床スポーツ医学研究会と合併して第1回日本臨床スポーツ医学会となりました。第2回東日本スポーツ医学研究会と第2回日本臨床スポーツ医学会の会長を先生は受持ち、特に第2回日本臨床スポーツ医学会では御病氣後で非常に体力が落ちているにもかかわらず、盛大な会を催されました。

1993年には、地域や従来の形式に

とられず、自由に討論のできる新しい場として第1回よこはまスポーツ整形外科フォーラムを開催して現在に至っております。

日本体育協会は東京オリンピック大会の翌年にスポーツ指導者育成事業をはじめ、スポーツトレーナーとスポーツドクターを養成しました。1995年の30周年にこの事業に貢献した者として表彰されております。

スポーツマンを支えているのは、医師の他に沢山の人がいます。当研究会は1983年に第1回スポーツ選手のためのリハビリテーション研究会として発足しました。この会の成立と発足以来、顧問として、講習会、研修会、夏期合宿講座、基礎教育講座等に貴重な講演で会員の育成と会の発展・充実に努力して頂きました。

1997年3月、横浜市立港湾病院院長の職を退かれてからは、かねてからの横浜市が計画しているグランドと横浜市スポーツ医科学センターの設立に専念し、1998年4月の開設にこぎつけて同センター長に就任しました。同グランドのオープニングには早慶ラグビー戦が組み込まれたのも、先生のラグビーにかけける意気込みが感じられました。

1999年6月22日に第2回秩父宮記念スポーツ医・科学賞の功労賞に輝いた先生の表彰式が行われましたが、遅きに失した感がありました。

現在のスポーツ医・科学は成長から充足・展開期にあるといわれ、整形外科でもスポーツ種目別の傷害に対して、この整形外科の治療が確実であるということまでは未だいておりません。更に、日本全国にスポーツ医学の治療を専門にする施設とリコンディショニングや回復に向

けてのリハビリテーション施設が不十分であり、これらの問題は先生を核にして達成されなければならない課題でありました。これらの問題を解決しつつ、平均寿命からみれば、2002年に日本で開催されるサッカーのワールドカップで孫の手を握れたはずでありました。

誠に残念な先生のご逝去ですが、スポーツ医学に真摯に取り組む人達、特に若者が多く、明るい未来がありますので、天上より温かく見守っていただき、どうか、安らかにお休み下さいと言いたいのですが、時には激怒の声がかかを借りて聞かされるのではないのでしょうか。

最後に、スポーツ医学に携わった者たちへのご指導・育成、JOC・日本体育協会・各種競技団体・各種学会等に寄せられたご献身・ご業績に対して深甚の謝意を捧げて、ご冥福をお祈りいたします。

スポーツ選手のためのリハビリテーション研究会 顧問 城所 靖郎

■今後の事業案内

平成11年度第8回ワークショップ開催のお知らせ

■開催要項

期間：平成12年2月5日(土)～6日(日)

会場：2月5日 - 熊本市「火の国ハイッ」、2月6日 - 熊本市「熊本機能病院」

テーマ：「肩関節外傷に対するアスレティック・リハビリテーションの実際」

肩関節外傷に対する評価方法から実際のアスレティック・リハビリテーションのあり方について講義と実技を行っていく予定です。

定員：50名

受講料：会員30,000円、一般50,000円(宿泊費、懇親会費を含む)

内容：

〔2月5日(土)〕

講義 「肩関節の運動学」

日野邦彦・熊本機能病院

講義 「肩関節の外傷」

浦田節雄・麻生田整形

講義 「肩関節外傷の評価」

尾崎勝博・野崎東病院

〔2月6日(日)〕

講義 「肩関節に対するアスレティック・リハビリテーション」

宮下浩二・スポーツ医・科学研究所

実技 「肩関節脱臼・亜脱臼に対するアスレティック・リハビリテーションの実際」

松田孝幸・スポーツコンディショニング・プロモーション・JIN

実技 「投球障害に対するアスレティック・リハビリテーションの実際」

能勢康史・国士舘大学

申し込み方法：官製ハガキまたはファクシミリにて、「ワークショップ受講希望」と明記し、氏名、年齢・性別、所属、会員、一般の別、連絡先住所、連絡先電話番号を明記し、下記へお送り下さい。折り返し受講受諾通知と案内、受講料納入方法を書面にてご連絡いたします。なお、定員になり次第、申し込み受付は締め切らせていただきます(受講は会員優先)

申し込み・問い合わせ先

〒860-8518 熊本県熊本市山室6-8-1
熊本機能病院リハビリテーション部
日野邦彦

TEL 096-345-8111 FAX 096-345-8188

平成11年度第2回講習会について

以下の要項で第2回講習会を行います。申し込み方法など詳細は、後日お知らせいたします。

■開催要項

期日：平成12年3月5日(日)

内容：慢性外傷についてメカニズム、治癒機転、対処法、治療など

予定講師：

医師1名 - 外傷学・診断学・治療法、組織学的な損傷過程と治癒機転についてご講義いただく予定です。
PT/トレーナー2名 - 機能評価、アライメント、フォームや具体的なリハビリテーションなどについてご講義いただく予定です。

(学術部 浦田和芳)

第18回研修会について

平成12年度の第18回研修会につきましては、以下のような開催趣旨のもと、広島県にて催されることが決まりました。詳細が決定次第お知らせいたします。多くの会員の方々のご参加、ご協力をお願いいたします。
第18回研修会長 浦辺幸夫・広島大学医学部保健学科

第18回研修会準備委員長 川口浩太郎・同上

■開催趣旨

1994年広島で第12回アジア競技大会が開催されたのと時期を前後し、7日本体育協会公認アスレティック・トレーナー制度が発足した。それまでの日本でのアスレティック・トレーナー活動は自称「トレーナー」により行われてきたが、この制度の発足は、トレーナーの世界に一定レベルの知識と技術の基準を設ける契機となった。

また、第12回アジア競技大会終了とほぼ同時に、2年後の広島国体へ向けて7広島県体育協会と連携を取り、全国に先駆けて広島県トレーナー協会が広島県で発足した。その後国体開催地を中心に都道府県レベルでのトレーナー活動が盛んになっている。しかし、トレーナーを職業として行うことができるスポーツ現場が圧倒的に少ないこと、他の職業を持ちながらトレーナー活動を行っていくことの難しさなど、トレーナーが現場で活動を行っていくうえで解決しなければならないいくつかの問題が残されている。7日本体育協会公認アスレティック・トレーナー制度は発足したが、実際には「トレーナーとは何か?」ということに対する明確な答えも出ていない。

今回、広島で「スポーツ選手のためのリハビリテーション研究会第18回研修会」を開催するに当たり、広島県トレーナー協会の活動におけるスポーツドクターや7広島県体育協会等の連携などを紹介し、制度発足5年目を迎えた7日本体育協会公認アスレティック・トレーナー制度の現状と今後の方向性を明らかにする

とともに、現場で活躍しているトレーナーから現状と問題点を報告していただき、もう一度「トレーナーとは何か？」を考え直してみたい。

■事業報告

第14回夏期合宿講座および平成11年度基礎教育講座報告

8月27日(金)~29日(土)の2泊3日、国立オリンピック記念青少年総合センターにて、第14回夏期合宿講座(平成11年度基礎教育講座は27日のみ参加)が行われました。参加者は夏期合宿講座45名(会員38名、一般7名、当日欠席1名)、基礎教育講座11名でしたが、25名の方が今回初めて夏期合宿に参加され、例年に比べニューフェイスの参加者の方が多い講座となりました。

また開催会場の国立オリンピック記念青少年総合センターも改築が進み、研究会としては改築後初めてセンター棟を利用する事業となりました。参加者の顔ぶれや開催会場を見ましても、例年になく新鮮な印象を受けた講座となりました。

ご講義を担当していただきました講師の先生方にはスポーツ動作をスポーツ現場に則した形で講義&実技をしていただき、参加者の方々には頭の中でイメージしたことを実技により体感し確認することのできた講義内容となり、アンケート調査におきましても高い評価をいただきました。資料作成などの準備を含め、熱心に取り組んでいただきました講師の先生方にはこの場をお借りして感謝を申し上げます。

今回はテーマを「スポーツにおける動作分析……」といたしました。スポーツ動作を分析することは外傷の原因の追求・解決・予防につながる糸口ではないかと考えます。動作を分析する「目」と「頭」は一朝一夕に養うことは難しいと思いますが、今回の講座をきっかけとして参加者の方が日々の活動に生かしていただければこの講座が意義あるものとなるかと存じます。

準備段階から多くのご配慮をいた

だき、また当日は若手の準備委員の運営にも関わらず、多くの方にご協力をいただきながら講座を無事に終了することができました。ありがとうございました。

準備委員長 板倉尚子

夏期合宿講座に参加して

去る8月27日より3日間、第14回夏期合宿講座が国立オリンピック記念青少年総合センターで開催されました。私にとって夏期合宿は初めての参加でありましたが、他のスポーツの行事に比べて参加者全体に一体感があるように感じました。宿泊施設のほうも勉強に集中でき、また他の参加者の方々と交流が持ちやすく非常に良い環境であったように思います。

講義は1日目に4講義あり、午後は実技中心で進められました。最初の講義は蒲田和芳先生による「スポーツの動作分析」でした。スポーツに携わっていくうえで動作分析は非常に重要であり、外傷・障害の回避やパフォーマンスの向上には不可欠であるということに改めて認識しました。また、ハムストリングの肉離れの発生機序を動作分析からみられていた内容は非常に興味深く拝聴いたしました。2講義目は鳥居俊先生の「スポーツにおける整形外科的疾患」でした。原因動作別にみたスポーツ外傷・障害についてレントゲンなどを交えながら非常にわかりやすく説明して下さいました。

次にいよいよ実技に入り、実技の最初は板倉尚子先生による「ランニング動作について」でした。前半はビデオを交えて非常にわかりやすい講義でした。しかし、その後の実技で実際に行ってみるとなかなかうまくできず、実際に行くことや人に伝えることの難しさを痛感しました。2つ目の実技は唐沢豊先生による「ジャンプとステップ動作について」でした。陸上でのスポーツにおいてはステップ動作やジャンプ動作は必要不可欠であり、それらを正しく習得することの重要性を認識しま

した。これら基本動作の習得からより競技に近い形の動作につなげていくことが重要であると思いました。

2日目は実技が3つ行われました。宮本三千男先生による「投動作について」では、投球フォームの問題と傷害の発生についてビデオなどを交えながら非常に詳しく教えていただきました。実技がなくなってしまったのが残念でしたが、非常に勉強になりました。続いて紺野正紀先生による「武道について」の講義・実技が行われました。構えの姿勢と軸の重要性は武道のみならずすべてのスポーツに言えると思いました。実技最後の小林寛和先生による「コンタクトスポーツについては、コンタクトスポーツとしてラグビーが取り上げられていました。私はラグビーですが、ラグビーの技術は感覚的なところが多く含まれ、ひとつひとつの動作分析がまだまだ少ないように思います。どうしてもケガが多くなるコンタクトスポーツではやはり動作分析が非常に重要であると感じました。

3日目は症例検討会が行われました。寺園圭一先生は野球選手の右動揺性肩関節、岡村幸枝先生は反復性の両足関節内反捻挫、小野秀俊先生は右足関節内側側副靱帯損傷・遠位脛腓靱帯損傷の症例を紹介して下さいました。これまでの動作分析の講義を頭において考えることができ非常に興味深かったです。

この夏期合宿で新しく教えていただいたものや再認識させられたものが多くあり、非常に実のあるものとなりました。これらを今後臨床の場で生かしていけるように日々努力していくつもりです。板倉先生をはじめこの合宿の準備委員の皆様へ改めて感謝の意を表します。

吉村直樹

■当会連絡先・URL

FAX 03-3372-6250

e-mail arfa@mx7.mesh.ne.jp

URL <http://www.attacknet.co.jp/ARFA/index.html>

スポーツ選手のためのリハビリテーション研究会
平成11年度第1回講習会収支計算報告書
(平成11年6月6日開催)

平成11年6月10日締

勘定項目	予算額	決算額	差異()	
収入の部	円	円	円	
参加費 会員	225,000	305,000	80,000	5,000円×61名
一般	70,000	518,000	448,000	7,000円×74名
展示費	5,000	10,000	5,000	10,000円×1社
講習会収入合計 A	300,000	833,000	533,000	
事業費	20,000	20,000	0	
収入合計 B	320,000	853,000	533,000	
支出の部	円	円	円	
通信連絡費	10,000	6,690	3,310	
事務消耗費	5,000	5,145	145	
運営費	20,000	72,800	52,800	反省会費含む
会場費	40,000	25,600	14,400	視聴覚機器借用料を含む
講演費	190,000	188,600	1,400	接待費・交通費を含む*1
人件費	20,000	20,400	400	受付・接待アルバイト
資料作成費	5,000	3,654	1,346	
雑費	5,000	4,445	555	
講習会支出合計 C	295,000	327,334	32,334	
差引差額 A - C	5,000	505,666	500,666	
差引差額 B - C	25,000	525,666	500,666	

*1：外部講師2名・内部講師2名

スポーツ選手のためのリハビリテーション研究会
第14回夏期合宿講座収支計算報告書
(平成11年基礎教育講座収支計算報告書)
(平成11年8月27日～8月29日開催)

平成11年9月1日締

勘定項目	予算額	決算額	差異()	備考
収入の部	円	円	円	
夏期合宿講座参加費 会員	1,400,000	1,330,000	70,000	35,000円×38名
一般	275,000	385,000	110,000	55,000円×7名
展示料	5,000	5,000	0	5,000円×1社
基礎教育講座参加費 会員	50,000	110,000	60,000	10,000円×11名
一般	0	0	0	平成11年度募集せず
講座収入合計 A	1,730,000	1,830,000	100,000	
事業費	20,000	20,000	0	
収入合計 B	1,750,000	1,850,000	100,000	
支出の部	円	円	円	
通信連絡費	50,000	49,160	840	切手代、電話代、送料
事務消耗費	30,000	27,262	2,738	事務物品代、コピー代
運営費	200,000	124,200	75,800	*1
会場費	70,000	67,100	2,900	会場借用料
講演費	350,000	339,812	10,188	*2
懇親会費	200,000	154,909	45,091	
宿泊費	400,000	339,750	60,250	*3
人件費	200,000	165,000	35,000	準備および当日アルバイト
資料作成費	200,000	101,030	98,970	資料集作成費
雑費	30,000	25,766	4,234	
講座支出合計 C	1,730,000	1,393,989	336,011	
差引差額 A - C	0	436,011	436,011	
差引差額 B - C	20,000	456,011	436,011	

*1：会議費、交通費、準備委員宿泊費・食事費、反省会費他

*2：外部講師1名・内部講師6名・内部シンポジスト3名・座長1名(交通費・宿泊費・接待費含む)

*3：宿泊費・食事/2,300円×2泊+朝食490円×2食+昼食640円×2食+夕食690円×1食=7,550円(一人当たり)